

今野晴貴『ブラックバイト 学生が危ない』岩波新書 2016 年

質疑応答

D グループ：学生アルバイトの労働問題を解決するためのユニオンが今現在どの程度普及しているのか。〈第 4 章〉

⇒本書には、札幌、仙台、東京、山梨、京都に所在していると書かれている（183 頁）。

A グループ：ユニオン（労働組合）が作られたことにより、どのくらいのブラックバイトが改善されたのか。〈第 4 章〉

⇒具体的な数字は書かれていないが、ユニオンの数が年々増えてきているため、それに比例してブラックバイトに悩む学生たちも年々減ってきていると思われる。

C グループ：社会人の非正規雇用やブラック労働に関する問題と、これまで注目されている学生のブラックバイトの問題に差異はあるのか。〈第 5 章〉

⇒社会人のブラック労働は生活に支障を与えるとされる。一方、学生は学業にも支障をきたすほどの労働の問題点が差異の一つに挙げられる。またブラックバイトには会社側、経営者側が学生に対してもつ「社会人的地位の優越」によるところも大きく、自らを優位において学生を支配している点がある。